

令和3年度 学校評価総括表

十津川村立十津川中学校

学校教育目標		ふるさと十津川を愛し、ふるさとでの学びを活かして、新しい時代を築く、心豊かな生徒の育成						総合評価 (A~D)		B
目指す生徒像		自主－自ら進んで学び、考えて行動できる生徒(確かな学力) 協働－勤労と責任を重んじ、礼儀正しく協力できる生徒(豊かな人間性) 剛健－自他の生命を尊重し、明るく元気でたくましく心身を鍛える生徒(健やかな体)								
令和2年度の成果と課題		本年度の重点目標						具 体 的 方 策		
新型コロナウイルス禍の中、感染症対策を徹底し、安全・安心な学校づくりに務めた。又、テレビ授業や短縮夏期休業の実施、行事の精選等により、授業時数確保等の教育活動の維持・向上に努めた。GIGAスクール構想の中、教員の研修を行い、授業でのタブレット活用を推進した。家庭学習と基礎学力の定着、働き方改革の推進が今後の課題である。	*基礎、基本の定着を図り、学習習慣の確立を目指す。		生徒の実態を把握し、学習が遅れがちな生徒への対策を図り、実態に応じた指導を行う。							
	*生徒の、主体的な活動を重視し、積極的に行動できる生徒を育成する。		生徒会活動が、より自発的・自治的な活動になるよう、全教員で支援する。							
	*郷土を愛し、未来を担う生徒を育成する。		郷土学習を教育活動に位置付け、生徒が自尊感情を高め、自己実現を目指す活動となるようにする。							
	*自己の将来に対する目的意識を育成する。		勤労の尊さを理解させるとともに、自らの力で進路を選択していく生徒を育成する。							
	*心のふれあいを大切にし、人権意識の向上を目指す。		道徳の時間を中心として、全教育活動を通して人権意識を高め、人権を尊重する実践力をもたせる。							
*生徒が、心身ともに健康な学校生活を送れるようにする。		食に関する教育の充実を図るとともに、生徒が「健康」について意識を高めることをめざす。								
*保護者や地域、村内各校所、関係諸機関との連携をより深める。		家庭や地域社会との関わりを多くもつとともに、職場体験、小中連絡会、中高連携活動を充実させる。								
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(2月)			学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
				自己評価 (A~D)	進捗状況	自己評価結果 (A~D)	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等		
学習指導等	教科教育の充実	新学習指導要領の完全実施と評価の充実	言語活動を通じて、生徒の主体的・対話的で深い学びを推進し、それに準じた評価基準を確立する。	B	新学習指導要領に準拠し、教科ごとに評価基準を作成し、1学期末の評価から運用を開始した。	B	他教科とも連携しながら、各観点をどのように評価していくのか、何で評価していくのかを設定し、年間を通じて修正しながら評価することができた。主体的に取り組む態度についてはどのようにみとめるのかまだ評価が難しい。	主体的な態度を客観的に見て実施する評価は、来年度も外部の研修等を利用して、あらゆる意見を聞き学ぶ機会を増やしていく。教科の中で、ICTのどのような活用方法があるのか、教科別の研修方法も取り入れていく。タブレット持ち帰り時の利用実態の把握と、利用についてのガイドライン策定し注意喚起を行う。	○学習指導等 ・教師集団と生徒個人や集団は、学校生活の多くの時間を共有し、密接な人間関係を有しながら、教育活動を展開している。 ・ICT教育の充実と並行し、本を読む、字を書く、辞書で調べるという、これまでの学習方法も大切にしたい。 ・一番大切なことは家庭学習の充実である。生徒・保護者に十分伝え励行していく事が、学力の定着に不可欠である。村外の学習塾で鍛えている生徒との差が広がっていく。 ・タブレットの活用と並行して情報モラルの教育を推進する必要があると考える。	
		ICTを活用した授業の推進	生徒一人に一台となったタブレットパソコンを活用できるように、研修を進める。	B	全体としての研修は多くないが、職員間で利用についての情報交換を積極的に行って、活用に必要な能力を高めている。	B				
	学習意欲の向上と家庭学習の定着	すべての生徒が分かりやすい授業を行う。	ICT等を利用し、生徒一人一人が積極的に参加して理解を深められる授業を研究・推進する。	B	授業での活用や休日に持ち帰っての課題提出など、生徒の学習活動に浸透してきている。	B				朝学習の時間は国・数・理を中心に生徒が自分の学力にあった課題や、得意不得意を選択して学習出来ている。しかし、朝学習によって学習理解がすすみ学力向上につながっていない他教科は検証できていない。また、朝学習に取り組んでいない他教科は達成率が低い。
		家庭学習の習慣化につながる課題(宿題)を設定する。	教科担任と学級担任の連携を深め、放課後・課外活動の時間も利用し、一人一人の生徒に対応していく。	B	各教科の課題の出題状況と、生徒の提出状況を視覚化して職員間で共有化を進める。	B				
	個に応じた学力・体力の向上	学力アップの時間等、放課後学習を有意義な時間にする。	タブレットパソコンを活用し、生徒一人一人が積極的に学習へ取り組めるようにする。	B	朝学習では、eライブラリを活用した学習を進めている。教員間で活用状況を確認しながら、学力アップにつなげていきたい。	B				朝学習の時間は国・数・理を中心に生徒が自分の学力にあった課題や、得意不得意を選択して学習出来ている。しかし、朝学習によって学習理解がすすみ学力向上につながっていない他教科は検証できていない。また、朝学習に取り組んでいない他教科は達成率が低い。
体育の授業や体育的行事等を通して、基礎体力の向上と生涯にわたり運動に親しむ力を育てる。		体育の授業や体育的行事は、生徒の運動への親しみや基礎体力の向上につながっていると答えた生徒が80%以上を目指す。	B	体育大会では縦割りの団を編成し、1年生から3年生までがまとめて競技することができた。体育の授業では、授業前にランニングを実施し基礎体力の向上に努めている。	B					
研究研修	生徒の主体的な学びを育てる授業の創造	総合的な学習の時間を通し、生徒が自ら課題を見つけ、問題解決や探求活動に主体的に取り組む力を育てる。	1年生では広く郷土について触れ、2年生で学級発表、3年生で学校発表を行う。段階的に取り組むことで、主体的、協働的に取り組む態度をはぐくみ、自己の生き方考えることができるようになる。	B	各種行事を通して、郷土についての学びを深めることができている。3年生で行う総合発表に向けて、情報の整理、集約、プレゼンテーションソフトの使い方を指導している。	B	1年生で郷土を知り、2年生で郷土の人々の思いに触れ、3年生で郷土の未来を考えることができる。ふるさとについて主体的に考えることで、自己の生き方を見つめる機会になっている。	校内で十津川村の歴史や伝統についての情報を引き継ぐため、総合学習の取り組み例を引き継いでいく。他の学校の先生方と情報交換する機会を増やす。	○研究研修 ・十津川村は、近隣市町村でも稀な歴史と伝統の村である。生徒に郷土のことをしっかり教えて誇りと自信をつけさせることが、へき地教育の根幹である。総合的な学習の時間を大切にしたい。	
		リモートを活用してさまざまな研修に参加することで、教員の資質向上を図り、生徒のよりよい成長につなげる。	指導主事に依頼しリモート(遠隔)での研究授業を実施したり、グーグルやeライブラリなど新たな学習ツール(用具)の研修をおこなったりする。	B	指導主事の先生方には、リモート(遠隔)で研究授業に参加して頂いた。複数のタブレットパソコンを活用して、授業の様子を伝えたり、学習ツール(用具)の研修は実施できていないが、各教員が個別に参加している。	B				
生徒指導	積極的な生徒指導の推進	規則正しい生活を心がけるよう呼びかける。	こころと生活等に関するアンケートを行い、生徒の理解に努める。	B	1学期にはアンケートを実施し、2学期にも実施予定である。規則正しい生活について、保護者への手立てを検討していかなければならない。	B	1学期にはいじめアンケート、2学期にはこころと生活等アンケート、3学期には1年生を対象にスマホ利用に関するアンケートを行った。また、学期に一度二者面談を行っている。	学期ごとのアンケート、二者面談と三者懇談、週に一度の生徒指導部会を今後も継続して行っていきたい。	○生徒指導 ・生徒指導は重要である。思春期の子どもに配慮しながらも、物事の是非は厳しく指導していただきたい。 ・教職員及び地域住民が連携し、特に大きな問題が発生することもなく良い1年であった。 ・タブレットを利用した学習について、有意義に進めて頂いている一方、SNSなどの危険性についても十分理解できるように指導していただきたい。	
		いじめを許さない姿勢を強く持ち指導にあたる。	いじめアンケートを実施し、早期発見、未然防止に努める。	A	いじめアンケートでは、学校としていじめと認定する事象はなかった。今後も生徒の様子にいち早く気づき対応していく。	B				
特別活動等	望ましい集団活動を通し、自己を生かす能力の育成	生徒会活動に主体的、自治的に取り組む力を育てる。	生徒会執行部だけでなく、生徒一人ひとりが生徒会の一員であることを自覚し、自分自身のこととして取り組み、活動できる内容を導入する。	A	文化祭、体育大会などの学校行事では、各種委員会が主体的に運営を行っている。委員会活動では、すべての生徒に仕事や役割を任せている。	B	学校行事では、各委員会と生徒会が主体となって運営を担ってきた。常時活動でも、各委員会が学校生活に根ざした活動を続けている。	行事運営の過程を大事にすることで、生徒の力を伸ばし、自己肯定感を高めていきたい。生徒の主体性が高まる行事にするため、PDCAサイクルを大切にしたい。	○生徒指導 ・生徒指導は重要である。思春期の子どもに配慮しながらも、物事の是非は厳しく指導していただきたい。 ・教職員及び地域住民が連携し、特に大きな問題が発生することもなく良い1年であった。 ・タブレットを利用した学習について、有意義に進めて頂いている一方、SNSなどの危険性についても十分理解できるように指導していただきたい。	
		学級、学校への所属感や連帯感を深め、自己有用感を高められる学校行事を運営する。	行事ごとに目標やねらいを明確に位置づける。生徒一人ひとりが主体となって行事を運営することで、集団としても個人としても活動意欲を高める。	A	生徒会活動では、「仲間作り」と「コミュニケーション」を目標に定め、各行事の運営を行っている。一人ひとりが所属グループに認められることで、積極的に活動に参加している。	A				
		心技体の成長につながる部活動を行う。	それぞれの部活動と個々の生徒が目標を設定し、目標へ向けた指導を充実させる。	B	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、部活動の活動が制限されている。限られた大会で力を発揮するために、日々の積み重ね、自分自身の練習を見直すことに力を入れている。	B				
教育相談	自尊感情の(自己肯定感)の育成	生徒の不安や悩みに寄り添い、聞く体制の充実を図る。	教職員による個別の教育相談を充実し、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカー等の専門家と連携して対応する。	B	支援を要する家庭・生徒について、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーと情報を共有し、支援方法を検討している。	B	スクールカウンセラーとの面談を実施した生徒が、去年と比べ3人増えた。内2人は継続して面談を実施できていた。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーから、引き続き支援を要する家庭・生徒について情報を共有し、いただいた助言を日々の対応に活用することができた。	来年度から1学期にカウンセリング体験、2学期にスクールカウンセラーによる授業などを取り入れ、関係作りを回り、面談予約に繋がれるよう努める。	○生徒指導 ・生徒指導は重要である。思春期の子どもに配慮しながらも、物事の是非は厳しく指導していただきたい。 ・教職員が積極的な生徒指導に取り組んでいる。いじめについては犯罪行為に直結することもあるため、その場合は関係機関との情報共有を密にして対応していただきたい。	
		生徒の自己否定的な意見、小さな体調変化を見逃さず、こころの健康を注視する。	生徒の観察と教職員間の連携を大切に、未然防止・早期発見・支援・対応を心掛ける。	B	授業中に校内巡視を行ったり、休み時間には生徒の様子を見に行くなど生徒の観察を積極的に実施した。気になる生徒がいた際には情報共有を行った。	B				

キャリア教育・進路指導	進路実現を見据えたキャリア教育の充実	将来の進路や職業などについての学習を積極的に進める。	道徳や学活・総合的な学習の時間と連携し、キャリアパスポートを活用しながら進路選択・職業選択の学習をする。	B	行事後や学期末にキャリアパスポートに振り返りを記入し、今後の見通しを立てることができた。また、進路通信などで高校紹介などを行った。	B	コロナ禍のため、職場体験を行うことができなかったが、何人かの講師に來校してもらい、講演や体験活動を行うなど、工夫して活動を進めることができた。	職場体験や保育園実習は職業選択には大きな意義があると思うので、できる限り実施の計画を立てたい。	○特別活動等 ・コロナ禍の中、人間関係の希薄化が心配されるが、行事等を通して「生徒の仲間づくり」が積極的にできていることが評価できる。 ・行事等をしっかり推進することは、生徒の「晴れの場」での活躍を保障するものであるから、今後も力を入れてほしい。そして、正当な評価をすることで生徒の自信と自己肯定感を育ててほしい。
道徳教育	道徳教育の充実	道徳の時間やその他いろいろな場面で生徒の道徳性を育てる。	道徳の時間は教科書を中心教材として授業を行い、人権講話との連携を図る。	B	道徳の教科書を中心教材としながら、動画やタブレットパソコンも利用し授業を進めている。	B	B	来年度も、複数の教員で授業に入り、様々な角度から生徒の様子を見ていくように努めていきたい。また、グループワークを多く取り入れ、意見交流できる時間を多くつけていきたい。	○教育相談 ・今後もスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと綿密な連携をとり、生徒の心のケアにつとめてほしい。
		チームティーチング(TT)による計画的な道徳授業を推進する。	各学年で計画を立てローテーションで授業を行う。複数の教師が授業に入り、多くの目で生徒の発言や記述を見る。	B	3学年ともローテーションで授業を行うことができている。複数の教師が授業に入ることでグループワークでの発言を聞くことができている。	B			
人権教育	生命の尊重と人権意識の高揚を目指した確かな人権教育の推進	命を大切に学習を行う。	他者の気持ちや意見を尊重する姿勢を身につける。	B	学校生活において生徒の言動に問題があれば適宜声かけを行っている。	B	B	人権講話を通して、世の中にある様々な人権に関する問題を知ってもらうことが出来た。振り返りのワークシートからも、人権意識の高い生徒がいることがわかった。	○キャリア教育 ・コロナ禍のため、職場体験が実施できなかったことは仕方がない。この禍が落ち着けば推奨して実施してほしい。
		人権を尊重する学習を大切に学習する。	毎月の人権講話等の感想文で、生徒の人権に対する意識を確認する。	B	昨年度と比較すると毎月の人権講話を実施出来ており、内容も昨年度より幅広いものとなった。しかし、生徒一人一人感想を抱いてはいるが、人権問題について深く考えられる生徒はまだ少ない。	B			
特別支援教育	みんなで関わる特別支援教育の推進	障がい者問題やバリアフリーについて正しく理解できる学習を行う。	道徳の時間や人権講話を通して正しい知識や考え方を身につける。	B	道徳、人権講話、各教科学習において適宜、障がい者理解への内容を生徒に提供して障がい者問題に向き合う機会を設けている。	B	B	障がい者理解につながる教材設定において、他領域の学習内容と結びつける積極的な研究を進めていきたい。	○安全教育 ・一人一人の子どもたちが、安全にかつ健全に教育を受けられる環境を整え、あらゆる手立てが講じられるよう関連機関との連携を深めてほしい。 ・歯科検診の未受診理由を分析し、改善策を検討願いたい。
		専門機関などとの連携を図り、特性や障害に応じた指導計画の作成や適切な指導を行う。	校内外との連携・連絡を密に取り、全校体制で計画的に指導を行なう。	B	巡回相談やカウンターとの面談等を通じて得た支援対象生徒の支援方法を活用し、校内教員と連携しながら日々特別支援教育に取り組んでいる。	B			
安全教育	保健安全教育の充実	適切な感染症対策を行う。生徒の健康を大切に指導を行う。	保健安全教育への満足度が、生徒・保護者共に80パーセント以上を目指す。	B	保健便り等を通じて感染症対策について周知した。一方的な保健指導が多かったため、生徒が考えられるような保健便り等の工夫を行う。	B	B	安全面について、校内の整備や美化、災害について各教科の学習を中心に、生徒一人一人に安全への意識を持たせていきたい。	○特別支援教育 ・この教育を充実していくことが全ての教育の基本である。
		健康診断や健康観察の結果から、指導が必要と思われる生徒に積極的に指導する。	健康診断の結果を分かりやすく伝え、受診を勧告する。規則正しい生活習慣を指導する。	C	歯科の受診勧告をした生徒のうち、受診した者の割合が55%であった。約半数の生徒が未受診のため、引き続き生徒や保護者に受診勧告を行う。	C			
	防災安全教育の充実	校内全般の整備・美化に努める。	毎日校内巡視を行い、危険箇所等がないかなどを確認する。	B	休み時間には各学年担当で教室付近を巡視し、早期発見や未然防止に努めている。朝の立哨については、毎日行くことができていない。	B			
災害時の避難経路や正しい避難方法を指導する。		定期的避難訓練を行い、常に自分の命は自分で守ることを意識させる。	B	1学期には避難訓練を実施した。1学期は避難方法、避難経路を知ることとどまったため、2学期以降どのような場面でも対応できるようにする。	B				
家庭・地域社会・他校種・関係機関等との連携	学校評価を活用した開かれた学校づくり	家庭との連携を深め、教育活動等の成果や課題について、適切に説明責任を果たし、理解と協力を得る。	懇談等を定期的に行うとともに、学校からの情報発信に努める。	A	懇談等は予定通り実施している。学校便りや学級通信、メールでの連絡、ホームページの更新等、適切な情報発信を行っている。	A	A	ホームページに進路情報を掲載するなど、生徒・保護者の意識向上に繋がる情報発信に努める。	○学年 ・各学年により様々な課題があるが、その都度教員が共通理解をしながら進めていく必要性が大きくなってきている。
		小学校・高校・地域との連携を深め、生徒の自尊・他尊・地尊を高める。	工夫しながら連携・交流の機会を確保し、その内容を充実させる。	B	生徒会役員のオンライン交流、十津川高校防災出前授業、合同文化鑑賞会、教職員合同研修、小中連絡会を、コロナ禍の中で工夫しながら実施した。	A			
第1学年	集団生活の基礎を養う	学級の一員として、仲間を大切に、互いに協力する力を育てる。	いじめアンケートにおいて、いじめ認知件数0件を目指す。	B	春の校外学習や文化祭、体育大会などの行事を通して、助け合い協力する姿が見られた。今後もお互いを認め合えるような集団になれるよう学級活動に取り組んでいく。	B	B	人権のアンケートで、仲間外れにされたことがあるにチェックがあり、今後も聞き取りや指導など注意して見ていく必要がある。	○学校教育の維持・向上 ・PDCAサイクルを繰り返し、学校教育の維持・向上に繋げていけたらと考える。
	安心、安全な学級作り	生徒と信頼関係を築き、安心して過ごせる学級をつくる。	学期に一度は二者面談を行う。アンケートにおいて、学級を安心して過ごせると答えた生徒、安心して学校へ通わせられると答えた保護者を80%以上を目指す。	B	1学期にはゴールデンウーク明けに二者懇談を実施し、小学校での出来事や中学校生活への期待や不安など、生徒一人一人の話を聞くことができた。	B			
第2学年	集団生活を通してリーダーシップを養う	学級の一員として、仲間を大切に、互いに協力する力を育てる。	行事毎にアンケートを取り、引っ張っていかたと答える生徒が80%以上を目指す。	B	違いを個性と認め、声を掛けることが出来る生徒が少しずつ増えてきている。行事に対しても、取り組む意欲を見せる生徒がいる。	B	B	他人と関わるときに、言葉遣いが荒くなったり、周りが見えなくなってしまう場面が見られたので、引き続き指導していく必要がある。	○学校教育の維持・向上 ・PDCAサイクルを繰り返し、学校教育の維持・向上に繋げていけたらと考える。
	キャリア教育の充実	職場体験に伴う学習を通して、将来について考える力を養う。	職場体験に伴う学習が自分の将来を考えるきっかけになったと答える生徒が80%以上を目指す。	B	昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響で職場体験を実施することが出来なかった。代替案として、3学期に講師を呼んで講話をしていただく予定である。	A			
第3学年	学校のリーダーとして自ら考え行動する力を養う	学級の一員として、仲間を大切に、互いに協力する力を育てる。	行事毎にアンケートを取り、仲間と協力できたと答えた生徒が80%以上を目指す。	B	文化祭での振り返りでも、自分や周りへの肯定的な意見が多くかかれていた。修学旅行に向けても、互いに協力し、進めている。	B	B	進路について、生徒や家庭によってかなり意識の差があるため、将来を見据えた進路選択ができるよう、キャリア教育も充実させていく必要があった。	○学校教育の維持・向上 ・PDCAサイクルを繰り返し、学校教育の維持・向上に繋げていけたらと考える。
	進路保障	学期ごとに、二者懇談、三者懇談を行い生徒、保護者の思いを聞きながら、進路選択への助言を進める。	進路希望調査や進路学習の際にあらかじめ生徒の思いを把握しておく。	A	生徒に対しては、二者面談を実施したり、テスト結果などから声かけをしたりしている。保護者に対しては、1学期末の三者懇談で相談をしたり、本人の希望が変わり次第連絡したりしている。	B			
学校教育の維持・向上	働き方改革の推進	「学校における働き方改革推進プラン」を推進し、教育活動の資質向上と効率化に努める。	業務全体を見直し、必要なことに力を注ぐため精選・効率化し、業務時間内の精一杯を意識する。	B	生徒の下校時間を適切に設定し、無理のない行事計画や部活動計画を心掛けている。上限の月45時間以上の時間外労働が減少傾向にある。	B	昨年度に比べ、時間外勤務は3割近く減っている。また、休憩時間を取得する動きも見られ始め、働き方改革への意識が高まってきている。	教育活動の資質向上を大切にしながら、できることから精選・効率化に努める。	

○自己評価・総合評価・・・4段階で記入 A:十分 B:概ね十分 C:やや改善を要する D:改善を要する

